



ミュンヘン日本人国際学校 斎藤 隆広 NO. 5

ミュンヘン日本人国際学校の4・5・6月

Grüß-Gott!! ミュンヘン日本人国際学校の今年度も残すところ4週間となりました。最後に、本校の1年間を振り返ってみたいと思います。

この期間の大きな行事としては、「ミュンヘンラリー」「小中合同運動会」「修学旅行」の3つが挙げられます。

1つ目はミュンヘンラリーです。ミュンヘンラリーとは、MT（ミュンヘンタイム）という学習の中で、中学部が毎年行う年度初めの大きなイベントです。



オリンピアパーク



レジデンツ



マリエンプラッツ

写真のようなミュンヘン市内の大きな建物をチェックポイントとして、1日かけて回り昼食もドイツ語を使いながら自分たちで食べるというような流れで行っています。ドイツ語部の先生方全員と中学部の先生方全員で下見を行い、入念な準備の下計画が進められます。普段は、保護者と歩くことが多いミュンヘン市内を、子どもたちだけで公共交通機関も利用しながら動くということもあり、迷ってしまうことも…。ものすごい量を歩き回ってくたくたで帰っていきます。

2つ目は、小中合同運動会です。日本人学校は割と合同の運動会が多いのかなと思いますが、小中一貫ならではの取り組みだと思います。ただ、本校は小さな中庭しかありませんので、4月～11月までを移動体育で行っています。



その流れで、移動体育の場を使って全校生徒で運動会を行います。中学生がリーダーシップを取ってくれて、そんなかっこ良い姿を目標にしながら下級生みんなが頑張るのは、とても良い流れかと感じます。普段は常に最高学年として自分たちがモデルになる6年生にとってありがたいことです。反面、中学部にとっては小学校に寄せていかなければならない部分も出てきて、どうしても物足りなさが出てきてしまうのが課題ではありますか…。

3つ目は修学旅行です。本校の修学旅行は、小学部6年生は南オーストリアのザルツブルク。中学部3年生は北ベルリンに修学旅行に行きます。どちらも2泊3日の行程となっています。

小学部は、体験活動を元に、ミュンヘン周辺の豊かな自然の力と栄えてきた背景について学びます。中学部は、ベルリン周辺で平和学習を進めていきます。どちらの学部もドイツ語部や現地採用の先生と協力しながら、普段の学習で学んできたドイツ語や英語などを使用する機会としても生かされています。コロナの影響で修学旅行に行けないこともありましたが、住まわせもらっている国、国周辺の文化や歴史に触れる本当に良い機会になっています。修学旅行を終えた後は、各学部成果を発表していきます。



ベルリンのブランデンブルク門の前にて



ベルリンにある森鷗外記念館



ポツダムサンスーシ(新宮殿)



ポツダム、ザクセンハウゼン強制収容所



ツエツィリエンホフ宮殿
(ポツダム会談が行われた場所)の
近くで、ドイツ名物シュニッツェル



壁にたくさんの絵が
描かれているイーストサイドギャラリー